

大久保中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
大久保中学校区 全域	認知症が進行して自宅での生活が難しい状態や借金が多額になり生活が困難な状態など、問題が重度化してから相談を受けることが多いことから、相談する窓口が分からない・相談するタイミングが分からない・見守り体制の構築が不十分な現状であることが予想される。	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ケースが重度化する前に早期に相談を頂ける地域になる。 ・センターの場所や連絡先、センターの機能や役割について理解して頂き、地域住民が相談する窓口が分かるような地域になる。 ・地域で気になる人を見つけた際に、センターに相談を頂けるように見守り体制が整っている地域になる。 	地域でのプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員協議会や地域のサロン、地域活動の場において、センターで相談を受けた事例紹介を行い、相談をするタイミングや事例について理解して頂く。センター機能や役割等について周知・啓発活動を行う。 ・相談内容や事例内容について集計や分析を行い、特定の地区をターゲット（年度で2地区を想定）として地区の民生児童委員や地域住民と情報共有を図る場を設定してニーズを聞き取る。 	◎ 総合相談 ◎ 地域ケア会議	4月	・地区で受けた相談内容や事例内容についてどのような問題が多いか、どのような属性が多いか等を調べる。 ・民生児童委員協議会や地域活動の場で事例紹介、センターの周知啓発を行う。	10月	・地区で受けた相談内容や事例内容についてどのような問題が多いか、どのような属性が多いか等を調べる。 ・今年度上半期の活動や取り組みについて評価分析を行う。 ・民生児童委員協議会や地域活動の場で事例紹介、センターの周知啓発を行う。
						5月		11月	
						6月		12月	
						7月	・4月～6月に調べた結果を基にして情報共有を行う地区を1地区選ぶ。地区の民生児童委員や地域住民と意見交換を行う。	1月	・10月～12月に調べた結果を基にして情報共有を行う地区を1地区選ぶ。地区の民生児童委員や地域住民と意見交換を行う。 ・今年度の相談件数、相談内容、目標に対する現状を評価する。
						8月		2月	
						9月		3月	

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
大久保中学校区 全域	住民に対して地域活動の現状を十分に周知できておらず、活動意欲がある住民を希望に合う地域活動へつなげていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の新たな担い手を発見・育成することで、地域活動の活性化につながる。 ・年齢、地縁等に関係なく、幅広い住民が地域活動に参加していただくことで、多世代交流の場が生まれる。 	担い手発掘プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地域について住民が興味・関心を持ち、主体的に地域活動へ参加していただくために、担い手の養成講座を実施する。 ・地域活動団体、企業、社会福祉法人等と連携し、養成講座終了後、受講者を活動場所へつなぐ。 	◎ 生活支援体制整備	4月	広報あかし、市社会福祉協議会のホームページ、あかね学園、民生児童委員協議会、地区社会福祉協議会、まちづくり協議会、スポーツクラブ21で周知し、養成講座を実施。	10月	受講者に有償福祉活動講座を案内する。
						5月		11月	
						6月		12月	
						7月		1月	
						8月		2月	東部（錦城）、西部（大久保）の受講者で交流会を行う。
						9月	受講者に地域活動を見学・体験していただく。	3月	受講者が活動先を見つけられるように情報提供を行う。

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

大久保中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
大久保中学校区全域	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもり当事者や家族は、問題が長期化すると家族で問題を抱え込み、孤立しがちである（R元年度～R4年度までのゾーン会議から） オートロックのマンション居住者は、本人・家族の望んだ交流以外は避ける傾向があり、住民同士のつながりが薄いとの声がある。 転入者が多いが、地の人と転入者との交流が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 有益な情報が、必要な人に必要な時に届けられる。 	つ 各 な 々 が に り と プ つ ロ て ジ 心 エ 地 ク よ ト い	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場で考える地区の課題を共有して、地区を再確認する。 各々に合った有益な情報について検討する。 	◎ 地域ケア会議 生活支援体制整備	4月	ゾーン会議にて各々から見える問題を出し合い、地区で優先して解決すべき課題を考える。	10月	つながり方の方法、それぞれに合った有益な情報や伝達について考える。
						5月		11月	
						6月		12月	
						7月	孤立が解消されるとはどのような状態か、つながる選択肢について考える。	1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

大久保北中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
緑が丘	<ul style="list-style-type: none"> ・区画整理された戸建て住宅が並ぶ地区であり、住民同士のつながる機会が少ない。 ・高齢化率が高く、認知症罹患率が高く、支援を必要とする世帯が多い。 	認知症の早期の気づき、早期受診につながる。	緑が丘つながるプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ①サロン参加者に対するアンケート実施 ②地域のキーパーソンに対するヒアリングを実施し、実際の地域の課題の確認と今後のアプローチの方向性を見極めをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 認知症 総合相談 権利擁護 	4月	・2/4にサロンでの人権学習が実施できた経緯と状況を確認する。	10月	サロン等での講座を実施。
5月	・地域のキーパーソンの確認（サロン・自治会）、その後、キーパーソンにヒアリングを実施し、実際の地域の課題を確認する。	11月	今年度の活動に対する評価を実施し、来年度の計画立案をする。						
6月	サロン参加者に対するアンケート実施も含め、地域に対するアプローチの方向性を検討する。（サロンの群衆像の確認）	12月							
7月		1月							
8月		2月							
9月		3月							

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
西脇	<ul style="list-style-type: none"> ・センターから距離がある地区であるため、サテライト等での身近な相談窓口が必要と感じる。 ・高年クラブや自主活動への参加や継続の意欲のある高齢者が多いが、次世代につなげることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要時に相談でき、適切な支援を受けられることができる。 ・他団体との協力支援体制がつけられ、地域活動が継続できる。 	西脇地域活動継続プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・高年クラブと自主活動の協力体制のきっかけづくりを行いつつ、地域の集いの場の継続を支援し、活動が途絶えないようにする。 ・サロンに来ている人が継続して来られるよう、後方支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 生活支援体制整備 総合相談 一般介護予防 	4月	・これまで活動されていた自主活動グループの活動再開状況を確認する。	10月	・出前講座を実施し、その中で住民のニーズ調査のためのアンケートを行う。
5月	・高年クラブや地域のサロンの活動状況を確認し、さらなるセンターとの関係構築のため、出前講座などの実施に向けアプローチをする。	11月	・次年度に向け、今年度の計画の評価を実施。サテライト相談の必要性や実施の可能性を検討する。						
6月		12月							
7月		1月							
8月		2月							
9月		3月							

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
南市住	<ul style="list-style-type: none"> ・市営住宅は、高齢化、世帯の小規模化（1名、2名）、多重課題を抱える入居者が多く、自助・共助の体制が作りにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り機能が強化され、安心して暮らすことができる。 	見守りネットワーク強化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りネットワーク機能を強化するために、担当地区の民生児童委員と情報共有、連携をさらに充実させる。 	◎ 総合相談	4月	・民生児童委員と情報共有、連携・協働する機会をつくる。	10月	・今までの取り組みを継続
5月	・上記の継続を行う。また、センターへ相談があったケースについて情報共有を行う。	11月	・今年度の評価を実施し、来年度の計画継続の必要性について検討する。						
6月		12月							
7月		1月							
8月		2月							
9月		3月							
ゾーマちなか会議	<ul style="list-style-type: none"> ・生きづらさを抱える地域住民への各団体の支援活動は活発であるが、相互理解する機会がないため、それぞれの連携に繋がりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大久保北地区に既存する各団体の取組を再認識し、「取組の輪を広げよう！取組の協働をしよう！」を実現する。 		<ul style="list-style-type: none"> 他団体と話し合うことで、大久保北地区内の支援活動の相互理解をすすめる、「顔が見える関係」作りが出来るように支援する。 	◎ 生活支援体制整備	4月	・R5年第1回まちなかゾーン会議	10月	・R5年第3回まちなかゾーン会議
5月	・R5年第2回まちなかゾーン会議	11月	・R5年第4回まちなかゾーン会議						
6月		12月							
7月		1月							
8月		2月							
9月		3月							

高丘中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
山手台小校区	○地区の自治会館しか住民が自由に集える場所がない。 ○近所にスーパーがなく、地域住民らの生活に大きな影響を与えている。 ○コロナの影響によりサロン活動はなくなり、高齢者が集う機会が減ってきている。 以上のことから、地域住民が交流や情報交換の機会が減ったことにより、早期相談ができなくなっている。	①地区内での助け合いのつながりが構築されている。 ②民生児童委員・自治会・サロン・総合支援センターの横の繋がりを作り、互いに協働して多方面による支援体制が構築できている。 ③住民・民生児童委員が小さなことでもセンターに相談できる体制ができおり、顕在化していないニーズを早期にキャッチできる。	やさしくまいにちでとてをだいにいきいきとプロジェクト	①山手台のふれあい会食やサロンにセンター職員が参加し、既存のネットワークの実態把握を行う。 ②サロン代表者や自治会長にセンターや民生児童委員の役割を知ってもらい、気軽に相談し合える関係づくりを行う。 ③これまでのセンターへの相談内容や、認定率、申請に至るまでの経緯などを分析する。	◎ 一般介護予防 ◎ 総合相談 ◎ 生活支援体制整備	4月	既存の資源から地域情報（認定率、申請に至るまでの経緯、過去の相談内容等）を収集。民生児童委員・サロン・自治会の活動ヒアリングを行い、必要であればアンケート調査も検討。サロンへ民生児童委員が気軽に参加できるように、生活支援コーディネーターを中心にサロン代表者と民生児童委員の顔つきを行う。	10月	思案した活動（出張相談やイベント）を始動。月1回ほどの活動目標を立てる。 医師会・歯科医師会・薬剤師会、高丘地区のまちづくり協議会の役員、高年クラブ、高丘地区にある福祉事業所などが集う会議（まちなかゾーン会議）でフレイル予防に資する活動を行い、地域に継続的に介入する。 センターと民生児童委員で、地域活動状況や、1年の振り返りの意見交換を行う。
						5月		11月	
						6月		12月	
7月	既存の地域情報シートに情報を追加していく。アンケートを回収・分析し、民生児童委員や関係者の協力を得て、出張相談やイベントなどが行えるように協議する。	1月	活動を継続しながら、地域情報を再収集・アンケートを行い、把握できたこと、できなかったことを見える化し、来年度すべきことを見出していく。						
8月		2月							
9月		3月							

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
高丘中学校区	前もって「もしもの時」の準備ができていないため、在宅での死を本人が望んでいたとしても、心配する家族は、病院からすぐに施設入所の選択肢しかない。身近に「もしもの時」を話せたり、考えたりする場がないため、突然予想もできないことが起き、焦って落ち着いた判断ができない。	住民自身が「もしもの時」に備え、普段から自分の望む医療や介護についての意思表示が出来る。地域のサロンや住民同士で、「もしもの時」のことを話す機会を地域の集いの場などに広めていく。	もしもの時の備え方～自分で選ぶACP～	①より身近に感じてもらえる講話内容とするため、寺の住職から話をしてもらったり、在宅での看取りの話を聞けたり、堅苦しい内容ではなく気軽に聞ける講話内容を考える。 ②講話に参加していただいた住民に、意思表示することの大切さを伝え、具体的な意思表示ができる「エンディングノート」のような資料を作成し、参加者にその場で記入していただくことで、より身近に感じてもらう。	◎ 医療介護連携 ◎ 認知症 ◎ 地域ケア会議	4月	地域住民と専門職、行政が集うまちなかゾーン会議の中で、「もしもの時」にどのように考えるかを意見交換し、地域住民の反応や今の準備段階について知る。地域向けの健康教室にて施設や介護保険の話をする中で、「もしもの時」の準備についても考えられる講義内容をセンターから提案する。	10月	①寺の住職からの講話、②在宅医療の現状を知る、③介護保険・施設の話の一つのシリーズとして、地域向けの健康教室を実施する。 ・高丘の救急隊員や警察OBに、より身近に感じる経験談等の話をしてもらおう。
						5月		11月	
						6月		12月	
7月	・①寺の住職からの講話、②在宅医療の現状を知る、③介護保険・施設の話の一つのシリーズとして検討する。 ・高丘の救急隊員や警察OBに、より身近に感じる経験談等の話をしてもらえよう調整する。	1月	教室参加者にアンケートを記入してもらい、「もしもの時」の備えの知識普及状況を把握し、次年度の普及啓発に向けて検討する。						
8月		2月							

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

高丘中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
						4月	5月	6月	7月
高丘 中 学 校 区	認知症に関する相談を受ける中で、男性が一人で介護を頑張っているという相談が入る。認知症になったら恥ずかしくて地域で相談ができないとの声もある。サロン代表者や民生児童委員からは、認知症の人の対応をもっと具体的に知りたいとの相談も入る。認知症カフェの「オレンジカフェ」は、コロナ禍で閉鎖しており、家族の話を聞く場所がなく閉じこもってしまう。	①認知症に対するマイナスのイメージを変えていき、特別な対応は必要ないことを住民に理解してもらう。 ②認知症の人を介護する家族が安心して相談できる居場所をつくる。 ③認知症カフェの運営に賛同してもらえる人材を発掘する。	ふらっと♡ ちょっと♣ あつまろう 会♣	①介護者や過去に介護経験のある人達が集まり、自由に話をして帰れる場所をつくる。 ②シルバーサポーターに認知症カフェのスタッフとして協力を依頼する。 ③施設職員や訪問看護師など医療従事者にも認知症カフェへの出務を依頼する。	医療介護連携 ◎ 認知症 総合相談 生活支援体制整備	4月	①年金支給日に合わせて、ふらっと集まる場を高丘コミュニティ・センター（高丘中央集会所）で開催する。	10月	①第1回目が開催できれば、月1回程度開催していく。まずは、センターの出張相談と合わせて企画し、その後、核となる人が居れば、サロンとして運営を検討していく。 ②-2認知症カフェの立ちあげに関して興味・関心のある人と一緒に話し合いを行う。②-3可能な限り、今年度に1回は認知症カフェを開催する。
						5月		11月	
6月	12月								
						7月	②-1民生児童員協議会定例会や地区社会福祉協議会で、認知症カフェやシルバーサポーター養成講座について説明と協力依頼し、反応をみる。	1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

江井島中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定																	
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	随時					
江井島全域	<p>・江井島からおおくぼ総合支援センターまで距離があり、本人が相談に来ることができない。</p> <p>・センターの存在を知らないため、相談できることを知らない。</p> <p>⇒相談件数をデータ化。主な相談者は家族又は専門職からの相談が多い。また場所にも偏りがあることがわかった。</p>	<p>・センターを認知する住民が増え、困った時に自ら発信し相談できる。</p> <p>・近所で気になる住民について、近隣住民からセンターにつなげていただける。</p>	江井島再生計画	<p>・昨年度に続き、江井ヶ島総合市場を拠点としたサテライト相談を継続する。（3か年計画として2024年まで継続予定）</p> <p>・センターを身近な相談窓口だと認識してもらえるよう、出前講座などを通じて周知を行う。</p>	◎ 総合相談 生活支援体制整備													市場でサテライト相談会の実施（体力測定）					

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定																	
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
大歳	<p>・大歳地区の住民が、地域内でつながれる機会が少なく、外出する機会がない。</p> <p>⇒大歳地区内、またその周辺では地域住民の集い場がない。健康教室や生活塾のアンケートからも、大歳地区の参加率が低い。</p>	<p>身近な場で住民同士の交流の機会が増える。</p>	大歳再生計画	<p>・昨年度に続き、大歳自治会館を活用し、センターの出張相談・出前講座を開催。大歳地区の住民が集まる機会を作り、地域住民のニーズについて調査を行う。</p>	◎ 総合相談 生活支援体制整備 一般介護予防																		

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

江井島中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
江井島	地域内で重度化した認知症高齢者の相談が増加傾向にあり、積極的に見守りをしてくれている住民の負担が大きくなっている。	<p>認知症があっても、地域で安心して暮らし続けることができる。</p> <p>地域住民が認知症を正しく理解し、負担を感じることなく、住民同士で支え合うことができる。また、地域住民がいつでもセンターに支援を求めることができる。</p> <p>地域内の認知症支援者（主にキャラバンメイト）が、地域の現状を把握しており、支援者同士で連携をとることができる。</p> <p>認知症に関する取り組みから、住民の認知症への理解の醸成、互助共助の負担感の軽減を図る。また、地区内の支援者同士で地区の現状等を共有し、地域への効果的なアプローチについて、支援者間で情報共有・交換を行える。</p>	認知症意識醸成計画	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかゾーン会議主催で、SOSネットワーク声掛け訓練を実施する。地域住民や民生児童委員、事業所等と協力して計画を進める。 ・オレンジサポーター養成講座の啓発チラシを活用し、地域内のサロン等に啓発を行う。 ・大久保地区単位で、昨年度に引き続きキャラバンメイト交流会を実施しキャラバンメイト同士での交流や情報交換を図る（開催日時は未定） 	◎ 認知症	随時	オレンジサポーター養成講座のチラシを、サロンや自治会、高年クラブ等に配布。	10月	声掛け訓練開催（予定）
						5月		11月	
						6月	まちなかゾーン会議を開催し、声掛け訓練について検討する。	12月	
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

魚住東中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
						4月	5月	6月	7月
金ケ崎 県住	孤独死が増え、民生児童委員と自治会長より不安の声がある。	異常の早期発見ができる見守り体制を構築する。	最期まで安心して暮らせる金ケ崎県住プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・担当民生児童委員より、金ケ崎県住の現状を聴き取りする場を設ける。 ・自治会役員とつながりをもつ。 ・個別訪問が必要な世帯の訪問者リストを作成する。 	◎ 総合相談 生活支援体制整備 地域ケア会議	4月	民生児童委員と話し合い	10月	個別訪問
						5月		11月	個別訪問（最終月）
						6月	自治会役員と話し合い（つながりをもつ）	12月	民生児童委員へ活動報告
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月	個別訪問 開始（3か月予定）	3月	

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
						4月	5月	6月	7月
長坂寺 県住	民生児童委員や自治会役員より、新規入居者の情報がなく、住民同士のつながりも少ないとの心配の声がある。	新旧住民のつながりもち、災害時に助け合える住民同士の関係づくりを構築する。	顔の見える関係づくり長坂寺県住プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員、自治会役員と情報共有する。 ・長坂寺県住の住民の防災意識を深める。居宅介護支援専門員にも理解を深める。 ・新旧入居者の世帯状況（要配慮世帯の有無など）の実態把握をする。 	◎ 生活支援体制整備 地域ケア会議 包括的継続的	4月		10月	防災訓練計画（案）を相談
						5月	自治会役員と話し合い	11月	
						6月	民生児童委員、自治会役員と情報共有	12月	
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
						4月	5月	6月	7月
魚住東 地区	認知症の方と、その家族の集いの場がない。	認知症の方の通いの場の必要性について、既存の団体等の社会資源の理解を深める。	認知症にやさしい町づくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・コープ意見交換会に参加し、地域課題を共有する。（認知症の方の集いの場の現状について） ・認知症理解を深める場所（サロン等）の選定。 ・担い手の発掘。（シルバーサポーター交流会を開催） 	◎ 認知症 生活支援体制整備 一般介護予防 権利擁護	4月	コープ意見交換会	10月	
							シルバーサポーター交流会	11月	
						5月		12月	
						6月			
						7月	居場所での認知症勉強会（長期的にアプローチ）	1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

魚住中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
（中尾住・新小谷区）	地域総合支援センターが生活圏域にない地域に、センターの周知が行き届いていない。	うおずみ総合支援センターに相談がしやすい体制がある。	遠い地域までセンターのことを知らせてもらうぞ！プロジェクト	<p><中尾> 地域にセンターの役割、機能を知ってもらうため、年2回の催しを住民と検討し、実施する。 ・自治会長、民生児童委員と話し合いの場を持つ。 ・話し合いを基に中尾地区でできることについて検討、企画する。 ・企画した内容を実施する。 ・実施内容を振り返る。</p> <p><新小谷> 住民にセンターの認知度についての調査を実施し、分析する。 ・新小谷地区の実態把握のため、自治会長、民生児童委員等にインタビューを実施し、調査、分析、話し合いをする場を持つ。</p>	◎ 総合相談 地域ケア会議	4月	・企画の提案、相談（中尾） ・インタビューの対象、内容など詳細を決める（新小谷）	10月	・振り返り後、2回目の実施に向けて準備（中尾） ・インタビュー開始（新小谷）
						5月	・企画実施に向けての準備（中尾）	11月	
						6月		12月	
						7月	・8～9月間に企画の実施（中尾）	1月	・1～2月間に2回目の実施（中尾） ・インタビュー内容の集計、振り返り（新小谷）
						8月		2月	・1～2月間に2回目の実施（中尾）
						9月	・実施後振り返り（中尾）	3月	・実施後、振り返りを自治会長や民生児童委員と行う（中尾）

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定			
錦浦小学校区	認知症の理解が進んでいない。 *根拠 ・地域の特性もあり、認知症のことについて相談しづらいという結果がインタビューによって判明した。	地域で認知症の方を見守る体制がある。	認知症をつつむまちづくり	<p>・認知症カフェの役割を運営スタッフと再度確認 ・認知症カフェの周知を地域へ行う ・周知を行う方法として以下の取組を随時行う。 ⇒自治会単位でオレンジサポーター養成講座を開催する ⇒見守りSOS声かけ訓練の案内、声掛け ⇒認知症の研修会の開催（事例紹介など）</p>	◎ 認知症 権利擁護 医療介護連携 包括的継続的	4月	・認知症カフェで研修会の準備 ・正しい理解を広めるためのオレンジサポーター養成講座等の呼びかけ	10月	
						5月		11月	・見守りSOS声かけ訓練実施
						6月		12月	
						7月	・認知症カフェで研修会実施	1月	
						8月		2月	全体振り返り
						9月		3月	

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

魚住中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定					
						4月	5月	6月	7月	8月	9月
錦 浦 小 学 校 区	高齢化等により、地域活動グループの運営が困難になっているところがある。	・休止しているグループの再建。 * 西岡高年クラブ	いきいきわ くわくプロ ジェクト	・西岡高年クラブ会長と関係構築 ・西岡高年クラブの困りごと、現状の把握 ・西岡高年クラブでできることについて住民と検討	◎ 生活支援体制整備 一般介護予防		・会長に挨拶、現状についての聞き取り	10月	・できることについて検討する		
								11月			
								12月			
							・高年クラブの困りごとについて聞き取り、現状を整理する	1月			
								2月			
								3月			

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

二見中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定		
東二見漁協付近	①漁師町…漁協＝借地 空き家 ②近隣の人は、昔からの繋がり （仲間意識）が保てており、距離を保ちながら見守りを行っている地域。 親族で助け合いながら生活している地域。 ※1 親族が高齢化、健康問題を抱え、問題解決力が弱くなっている。	※1 ふたみ総合支援センターを身近に感じてもらえ、気軽に相談してもらえる。	つながりプロジェクト	【1】 サテライト相談を拡充する (1か所から3か所へ) ・上西厚生館（継続 第2金午前） ・二見はまなすの会（第4水13:30-） ・カルフルの薬局 サテライト相談を周知する ・サテライトのチラシ作成	◎ 総合相談 生活支援体制整備	4月 ※通年、介護予防教室開催 ※3/月、サテライト相談開催 ※二見はまなすの会へ参加 ①サテライト相談を実施し、住民の困りごと等の相談に応じ情報提供や、課題解決を図る。	10月	<ul style="list-style-type: none"> 東二見漁協付近の地域特性についてまとめる 東二見漁協付近の生活実態を検証
	③ケースから見えること 障がい者問題（精神・知的）が多く、やさしく見守っているが、障がい特性や、対応について学ぶ機会がない。 ・若年世代が多い ・男性が多い ※2 障がいについて学ぶ機会がないため、独自の障がい理解に至っている。	※2 障がいの特性や対応に対する理解を深め、より障がい者が、住みやすい地域になるため、障がいについて考える機会がもてる。		【2】 四職種が多様な障がいについて学ぶ ・保健所の相談支援課と連携し、必要に応じて同行訪問する。家族等に対応や理解を深めていく。 ・保健所の相談支援課と年1回情報や課題共有の場を持つ。 ・基幹相談支援センターと連携し、必要に応じて同行訪問。家族等に対応や理解を深めていく。 ・基幹相談支援センターと年1回情報や課題共有の場を持つ。	◎ 地域ケア会議	5月 ②サテライトチラシ作成 6月 ③保健所と課題共有する会開催 ④個別課題、地域課題を抽出した内容を統合的に再確認 7月 ⑤課題への取り組みを検討	11月 12月	
	④生活 ・男性が生き生きしている ・漁協の婦人部が、魚やおかずの交換をしている ⑤地域 ・自治会が機能している ・二見はまなすの会がある ※3 より強みを活かした地域になるように、活動の担い手が増える。	※3 地域や生活実態を把握するため、地域の人の声を聞き、課題を分析する。		【3】 どのような活動の担い手が必要か調査する。 ・二見はまなすの会のサロンや介護予防教室に参加して、スタッフや参加者と交流を図る（第4水 13:30-）	◎ 地域ケア会議 ◎ 生活支援体制整備 一般介護予防	8月 チラシを活用して周知 9月 ①継続 ③相談内容を分析して、個別相談の課題抽出と地域課題の抽出を行う（1/月 会議開催）	1月 2月 3月	

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援

二見中学校区 地域支援計画書（令和5年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状） 裏付け（根拠となる情報）	目標 （目指すべき理想）	プロジェクト 名	課題 （現実と理想のギャップを埋める）	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間予定		
あわの自治会	①男性介護者が多い ・介護に対する悩みの抱え込み ・孤立 ・もともと引きこもり生活 ・経済的な課題がある →高齢者虐待事案多数	【1】 男性介護者が人と繋がりを もって、困ったときに相談でき、 必要に応じてセンターに相談が 入り、連携できる地域になる。	つながり プロ ジ ェ ク ト	【1】 ・あわの県住の集会所で健康 測定会を行う（3ヶ月に1回） ・二見守ろう会から居宅の 介護支援専門員やセラピ ストなど福祉職と連携し、 多視点で課題分析する。	◎ 一般介護予防 生活支援体制整備 包括的継続的	4月	ふたみ版ACPを作成 センターチラシを作成	10月
	5月					あわの自治会 健康測定会開催準備 ・住民が参加しやすい 方法を集会所管理人	11月	第2回あわの自治会 健康測定会
	6月					二見まもろう会で相 消費者被害の現状 を警察と共有、住 民に予防の周知する	12月	地域の方がACPを 実践する
7月	センターチラシを 掲示板に掲示する	1月	第3回あわの自治会 健康測定会					
8月	第1回あわの自治会 健康測定会	2月						
9月	住民にふたみ版ACPを 周知する ・健康教室 ・あわの自治会健康測定会 ・サロン ・居宅介護支援事業所 巡回訪問	3月						
②要介護者 ・妻、母の介護を担っている ・認知症（中～重度）の方が多い			◎ 医療介護連携 認知症					
③地域 ・集合住宅多く、つながりなし ・保証人のない低家賃住宅 ・地域ごとの孤立 あわの県住			◎ 総合相談 権利擁護					

【略称している事業の正式事業名称】 包括的継続的：包括的・継続的ケアマネジメント支援 認知症：認知症総合支援